

1 班

← 3 つの班に分かれ、WSを実施しました。

	市民事業者が目指す 加東市のすがた	課題など
廃棄物分野	● ポイ捨て、不法投棄のないまち	● 個人の意識が低いと、ポイ捨てや不法投棄が減らない。 ● 市外の人(通過する人)がゴミを捨てている。 ● 小売店でのビニール袋の有料化やゴミ袋の値上げなどでゴミが減るかもしれない。
地球環境分野	● 市民、事業所、行政での役割分担が進んだまち ● もっと地球環境について身近に感じられる工夫をするまち	● 市民ができることが少ない。エコカーの導入など限られている。 ● 直接影響がないと意識をしない。深刻に考えられない。 ● 森林を伐採して太陽光パネルを設置しているところもあり、自然環境の保全と矛盾している。
自然環境分野	● 海外の方との交流の場や、貸し出しを行うなど耕作放棄地の有効活用ができるまち ● 山の管理への関心が高いまち	● 耕作放棄地をどう減らしていくかが課題。 ● 山の整備が行き届いていないためイノシシなどの被害がある。 ● 昔はよく見かけた植物が減少しているなど、身近な自然が減っている。
生活環境	● 高齢者でも移動しやすいまち	● 自転車や徒歩で通行するのが危険な箇所がある。 ● コミュニティバスがない。自主運行バスが一部あるが、利用者も少ない。
協働の推進・環境学習分野	● 楽しみながら環境について学べるイベントのあるまち ● 学校教育で環境学習が充実しているまち	● イベントの参加者が毎回同じ、人数も少ない。

	市民事業者が目指す 加東市のすがた	課題など
廃棄物分野	● 誰もが暮らしやすい循環型のまち	● 自動車からのごみのポイ捨て、ごみ出しマナーが課題。 ● ごみのポイ捨てや、マナーやルールを守っていない人は、市外から来た通行車や、加東市に転居間もない人、生活習慣の異なる外国から働きに来ている人が多いように感じる。 ● 外国の方向けのごみの出し方講習会を実施しているが、来る人は限られる。 ● 外国から働きに来る人は数年で入れ替わるため、継続的な講習などが必要。 ● 生活習慣の異なる人や市外の人にとっても生活しやすいまちづくりが必要。
地球環境分野	● 地球環境についてみんなで学び教えあい、世代間交流が進むまち	● 気温が上昇していることは実感する。 ● 太陽光パネル設置のために山林を伐採することが環境に良いと思えない。 ● 電気自動車の充電に用いる電力は、化石燃料が使われている。 ● 小中学生からの環境教育が必要。皆で考えて意識を変えていくことが必要。 ● 小中学校での環境教育は行われており、大人より子供のほうが環境問題に詳しいケースもある。 ● 昔は火鉢を囲んで大人が子供に知識を伝えていたが、今では一人一人が自分の部屋にすることが多くなっており、世代間の知識の伝達がむづかくなっている。
自然環境分野	● 農地や山林が適切に管理されるまち	● 耕作放棄地、山林の放置が加東市では大きな課題。 ● 自然環境を改善する場がない。ごみ問題であれば人を集めてごみを拾うというイベントのような企画があるが自然環境では見かけない。自然環境でも区域を決めて、事業者、小中学生、住民が集まってやっていけばよい。 ● 中小の事業所でも取り組めるような自然環境教育の体制づくりが必要。従業員、その家族を含めればかなりの人数になる。
生活環境	● 誰もが病院、商業施設、公共施設などへのアクセスが確保されるまち	● 加東市では公共交通が最大の課題。交通アクセスの確保は重要な問題。市内の地域ごとに異なる交通課題があり様々なケースがある。 ● 路線バスは本数が少ないから乗る人が少ない、乗る人が少ないから本数が減るという悪循環に陥っている。 ● タクシー券は一度病院に行けばなくなるような程度のものである。 ● 自主運行バスは、地域でドライバーを確保する必要があり担い手が不足している。認定 NPO の活用やタクシー会社と組むなどが検討課題。 ● 小野市のコミュニティバス(らんらんバス)のような運営形態を導入することや、市域単位ではなく広

		域で運行することも検討課題。 ● 高齢者、障がい者、子供、誰もが病院、商業施設、公共施設などのアクセスが確保される必要がある。
協働の推進・ 環境学習分野	● 環境を学ぶ機会を持てるまち	● 従業員の多い企業では、年に一度環境一般教育として温暖化問題等の教養講座を実施している例がある。講師は社内の担当者が担っている。 ● ISO14000 の更新などには費用がかかるが、取得することで取引上のメリットや会社の格の向上などメリットが生まれている。 ● 企業での環境教育により、従業員の意識、生産性、売り上げの向上に結び付く。 ● 中小企業などでは、費用面の問題などで環境教育をできないケースもある。 ● 事業所だけでなく、市民全員が環境を学ぶ機会を持てることが重要。

	市民事業者が目指す 加東市のすがた	課題など
廃棄物分野	ごみを減らしたり、再利用することに意識の高い市民が暮らす美しいまち	作る責任、使う責任をもっと持つ必要がある。現在の取り組みではまだ甘い。 大きな項目では意識がわからない。もっと細かい項目を提示していかないと身近に感じられない。 廃棄物のリサイクルでも運搬の際に排気ガスがでることなどを理解できていない。知識が少ない。 食品ロスの取り組みなども現在のものは生ぬるい。もっと思い切ったことをしていかないといけない。 無関心の人が問題。無関心の市民をなくしていくボトムアップが必要。 →市民全体でパートナーシップを持って協力していかないといけない。
地球環境分野	ひとりひとりが、自分の生活の先に地球環境があるという(地球環境を守っていくという)市民の暮らすまち	話題が大きすぎて市民一人ひとりの身近な生活に結びつかない。何をすればいいかわからない。 省エネ商品に関しても、電気代が安くなるかを重視して購入しており CO₂ 削減効果は意識されていない。 →地球環境に関しては「教育・学習」が原点となる。知識が増え、意識が向上しないと行動が変わらない。
自然環境分野	身近な自然環境を守り維持しながら、将来にわたってそれぞれの立場で安心して暮らせるまち	鳥獣害問題は深刻。自然を守る＝害獣を守るのではなく、バランスを維持することが重要。 草刈りなどの管理が十分にできなくなっている。(担い手不足、費用不足) 若い人に農業の魅力を伝えていかないといけない →農業だけでなく、生物多様性などについての教育の推進をする担い手をつくることが重要(地元の人に限らず)
生活環境	(インフラ(ハード)が整っていないくても)隣近所が声を掛け合い、互いに助け合う温かい人々が暮らすまち (これがあればどのような環境課題も解決できる)	公共交通機関がない(特にバス)。自主運行バスは不便。 →各組織(会社、ファミサポ、シルバー、自治会)で相互扶助の仕組みを作ることが課題。 バスがあってもバス停まで行けない。独居老人や足腰の弱った方。 →地域のコミュニティ(近所付き合いの強化、助け合い)が課題。どちらも行政のサポート(金銭面でも)が必要。
協働の推進・環境学習分野	地域のふれ合いで互いに広範囲の環境課題や意識を教え合い、高めあう人々が暮らすまち	イベント(市民の集い)をしても、知らない人が多い。(テーマも関心をひくものではない) 環境では人が集まらない。環境イコールごみとなっておりごみ以外の関心が低い。環境はごみだけの問題ではないという啓発が必要。 →生活環境(関心の高い交通手段、次世代の担い手・)などもテーマにする。 →人権学習など、動員されているイベントに環境問題も抱き合わせる仕組みを作る。 →卒業証書を出す